

(b) 無障害物帶形成地の植生(樹木伐採地及びチガヤ類等の移植予定地)

無障害物帶の調査位置は、北側、東側、南東側、南側、西側の5ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.3.2-18 に示した。また、調査地点の植生の変化を図 6.3.2-36～図 6.3.2-40 に示した。なお、調査結果には、過年度結果についても掲載し、植生の推移を分かるようにした。

無障害物帶は、平成 25 年度に樹木の伐採を行い、盛土部分は張り芝が行われている。以下に、各地点の植生状況を示した。

北側は、平成 26 年度末に芝張りが完了し、今年度より調査を開始した地点であり、草丈 0.2m、植被率 90～95%、出現種 6～9 種であった。平成 27 年 1 月の段階では、芝張りされたコウライシバが優占していた。

東側は、樹木を伐採したものの、草本類を可能な限り残した場所であり、昨年度の最終調査(平成 26 年 3 月)では、草本層に分化がみられ、第 1 草本層が高さ 3m、植被率 25%、出現種 1 種、第 2 草本層が高さ 1.0m、植被率 20%、出現種 21 種であった。今年度調査においては、第 1 草本層が高さ 3.0m、植被率 30%、出現種 3 種、第 2 草本層が高さ 1.0～1.2m、植被率 40～60%、出現種 25～27 種であった。平成 27 年 1 月の段階では、リュウキュウチクが優占するほか、アカメガシワの幼樹やリュウキュウイチゴ等が生育していた。

南東側は、昨年度の最終調査(平成 26 年 3 月)では、草丈 0.05m、植被率 85%、出現種 1 種であった。今年度調査においては、草丈 0.3～0.7m、植被率 100%、出現種 7～11 種であった。平成 27 年 1 月の段階では、芝張りされたシバが優占していた。

南側は、昨年度の最終調査(平成 26 年 3 月)では、草丈 0.1m、植被率 20%、出現種 2 種であった。今年度調査においては、草丈 0.1m、植被率 40～80%、出現種 5～14 種であった。平成 27 年 1 月の段階では、芝張りされたシバが優占しているほか、コウライシバの生育も確認された。

西側は、昨年度の最終調査(平成 26 年 3 月)では、草丈 0.05m、植被率 80%、出現種 2 種であった。今年度調査においては、草丈 0.15～0.2m、植被率 100%、出現種 4～9 種であった。平成 27 年 1 月の段階では、芝張りされたシバが優占していた。

表 6.3.2-18 無障害物帶形成地の植生調査結果(N-4.2)

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「2・3」の場合、「2」が優占度、「3」が群度となる。

(優占度)

5:被度が 75~100% 4:被度が 50~75% 3:被度が 25~50% 2:被度が 10~25% 1:被度が 10%未満 +:被度が 1%以下

(群 度)

5:カーペット状に分布 4:カーペットに穴が開いた状態 3:大きな斑を形成あるいはまだら状 2:斑状に分布

1:小群状あるいは單独に分布。



図 6.3.2-36 無障害物の植生状況の推移(N-4.2 北側)

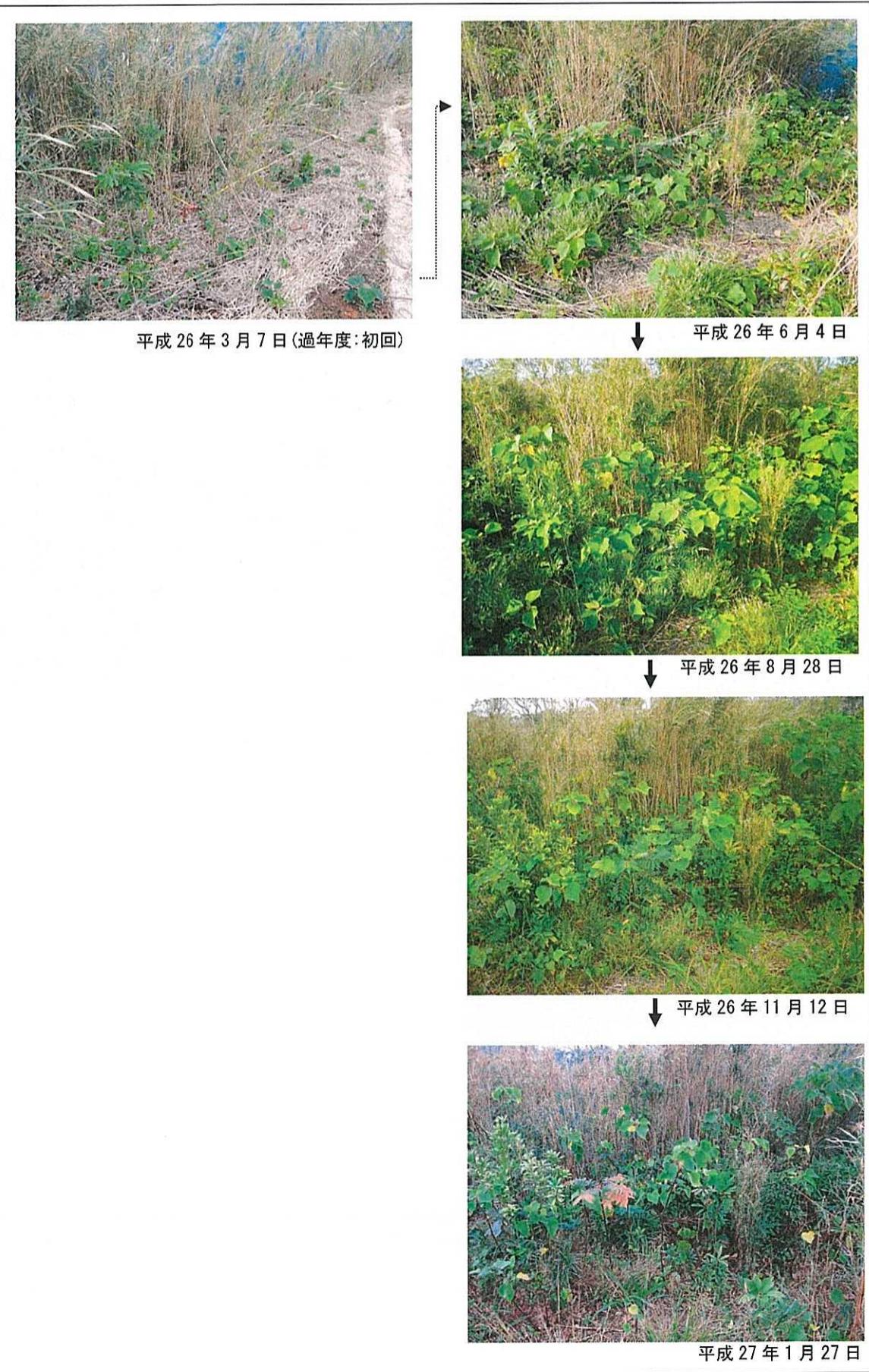


図 6.3.2-37 無障害物の植生状況の推移(N-4.2 東側)



図 6.3.2-38 無障害物の植生状況の推移 (N-4.2 南東側)



図 6.3.2-39 無障害物の植生状況の推移(N-4.2 南側)

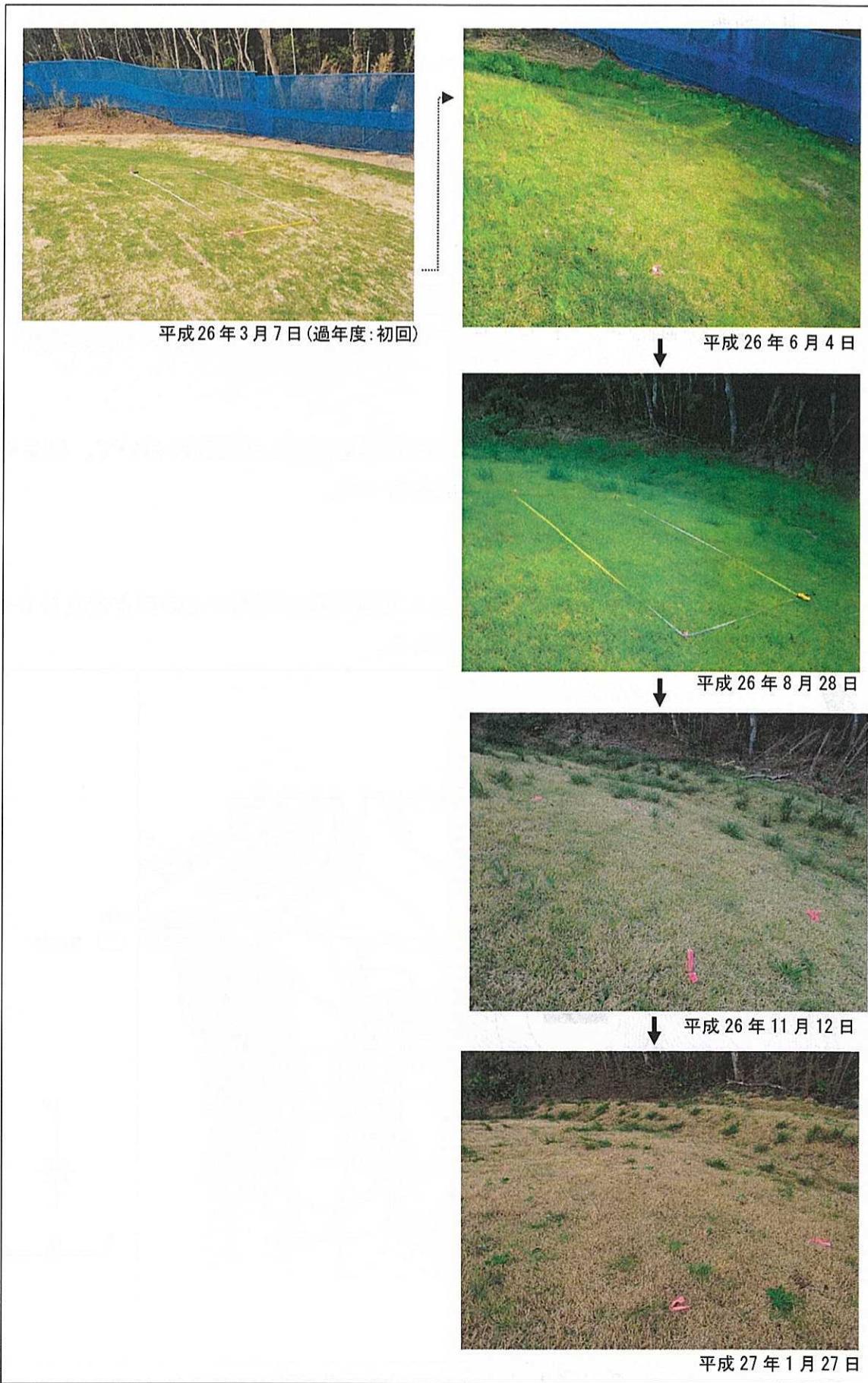


図 6.3.2-40 無障害物の植生状況の推移(N-4.2 西側)

5) 工事による副次的影響を復元した箇所における植生状況

(1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.3.2-19 に示した。

表 6.3.2-19 調査期間一覧

調査期	調査年月日
春季	平成 26 年 5 月 20、21 日、6 月 4 日
夏季	平成 26 年 8 月 22、28 日
秋季	平成 26 年 11 月 10、11、12 日
冬季	平成 27 年 1 月 20、22、27 日

※N-4.2 南側については平成 26 年 7 月に復元(張芝)したため、春季調査は実施していない。

(2) 調査方法

図 6.3.2-41 に示す工事による副次的影響を復元した箇所において、植生の回復状況について、写真撮影による記録を行った。

(3) 調査地点

調査地点は、図 6.3.2-41 に示す N-4.1 北西側及び西側の土砂置き場及び N-4.2 北側及び南側の芝張り箇所の 4 箇所である。

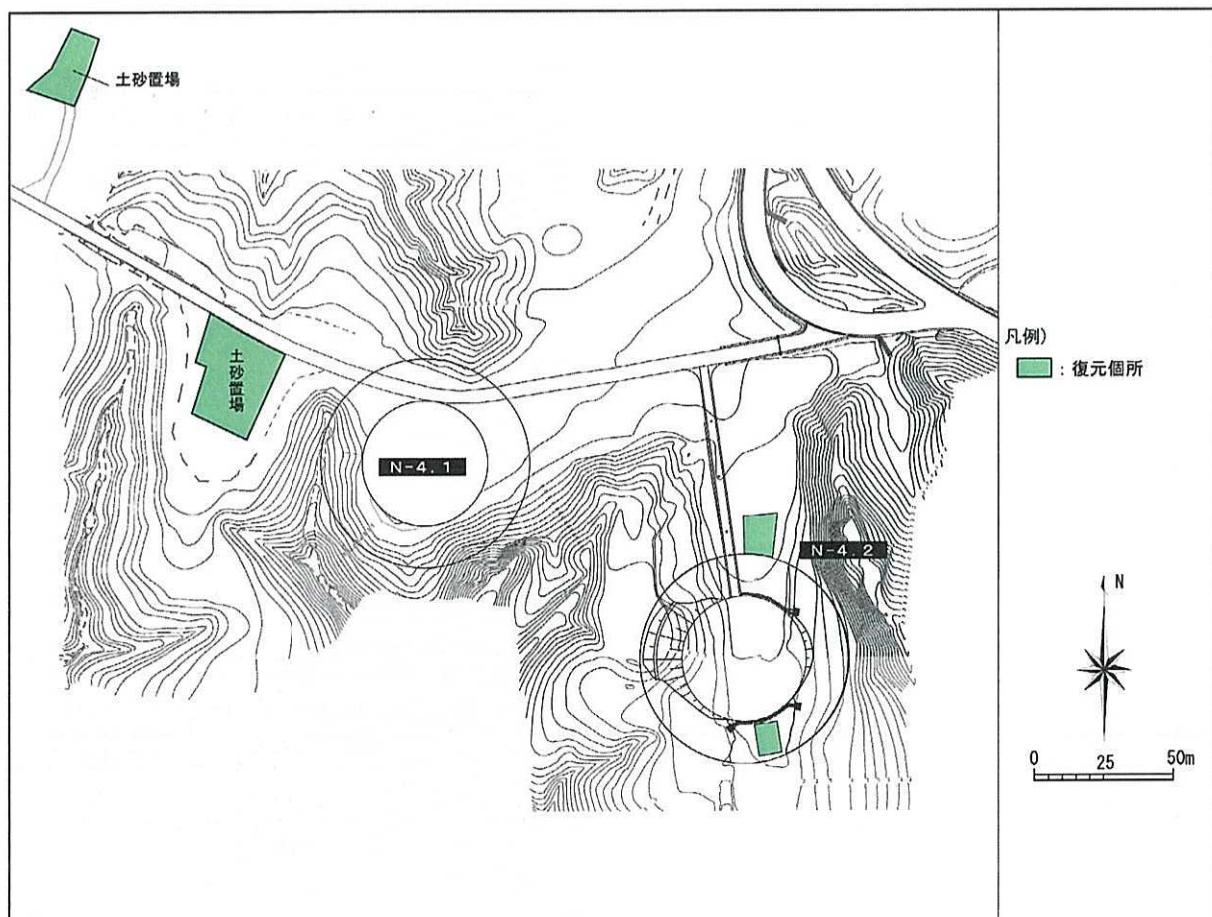


図 6.3.2-41 工事による副次的影響の復元箇所

(4) 調査結果

復元箇所は張芝が行われており、草丈 0.2m 程度の草地環境となっている。

復元箇所の植生状況を図 6.3.2-42～図 6.3.2-45 に示した。

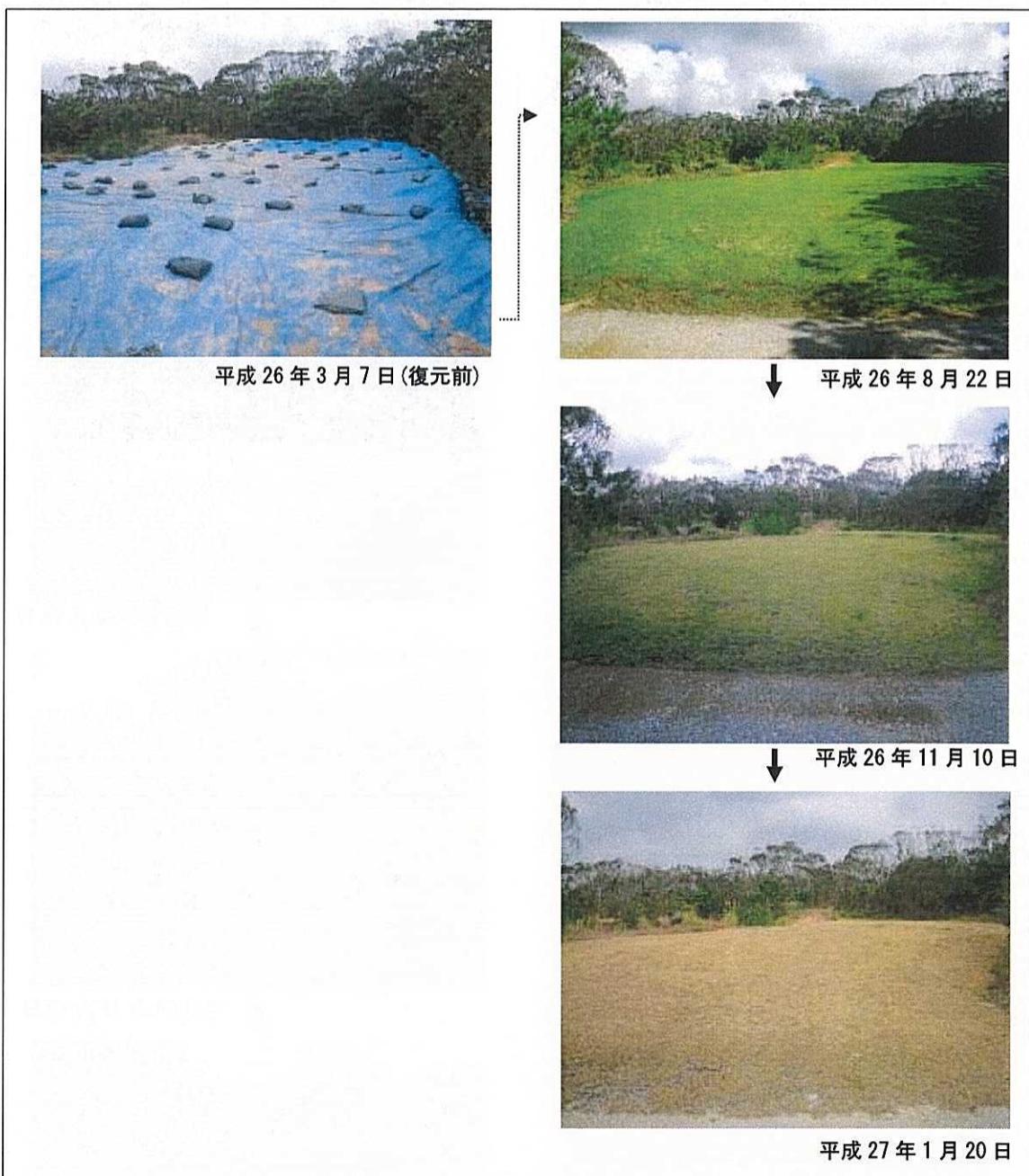


図 6.3.2-42 工事による副次的影響の復元箇所の状況 (N-4.1 北西側 土砂置き場)

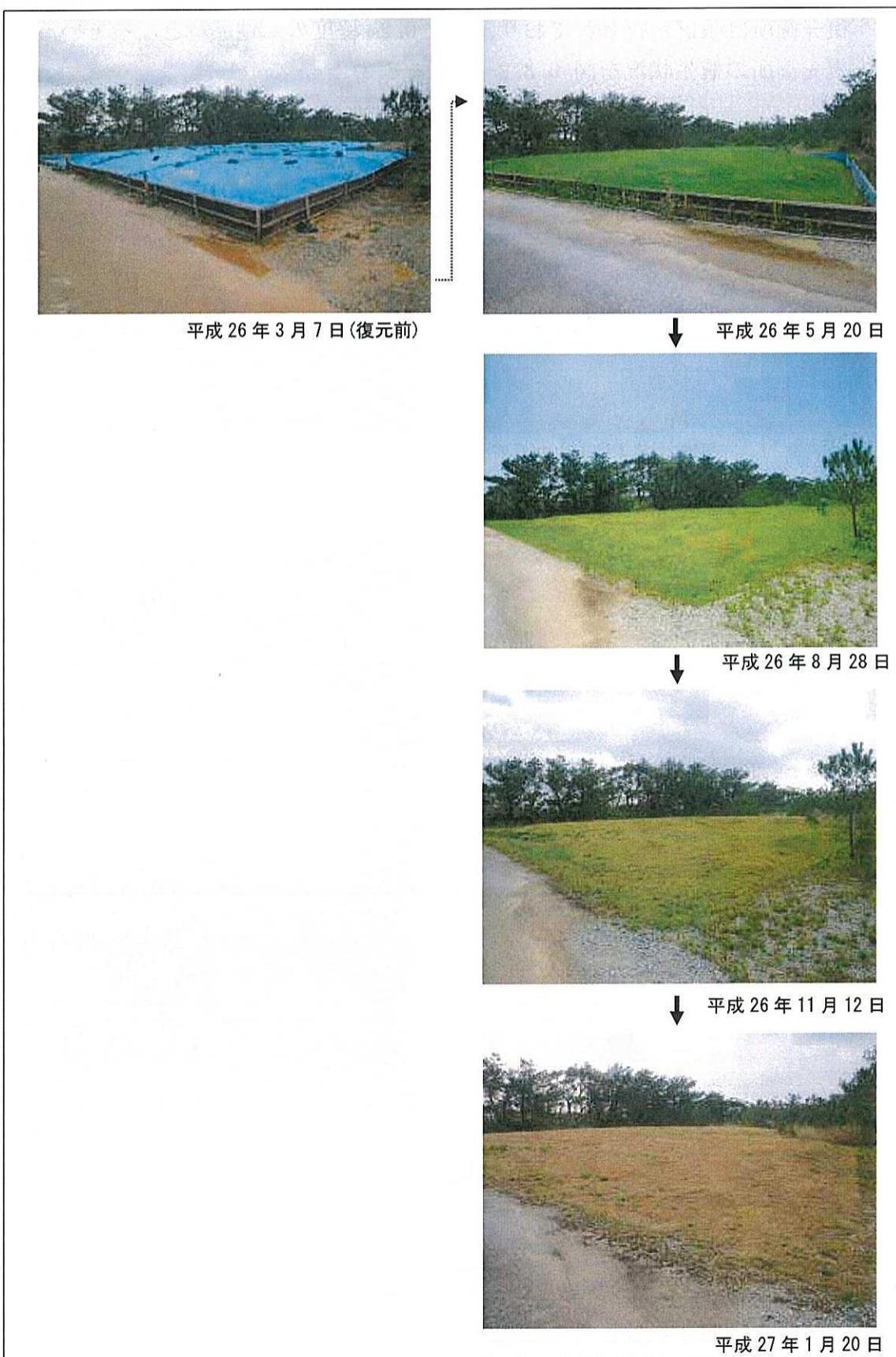


図 6.3.2-43 工事による副次的影響の復元箇所の状況(N-4.1 西側 土砂置き場)



図 6.3.2-44 工事による副次的影響の復元箇所の状況(N-4.2 北側)



図 6.3.2-45 工事による副次的影響の復元箇所の状況 (N-4.2 南側)